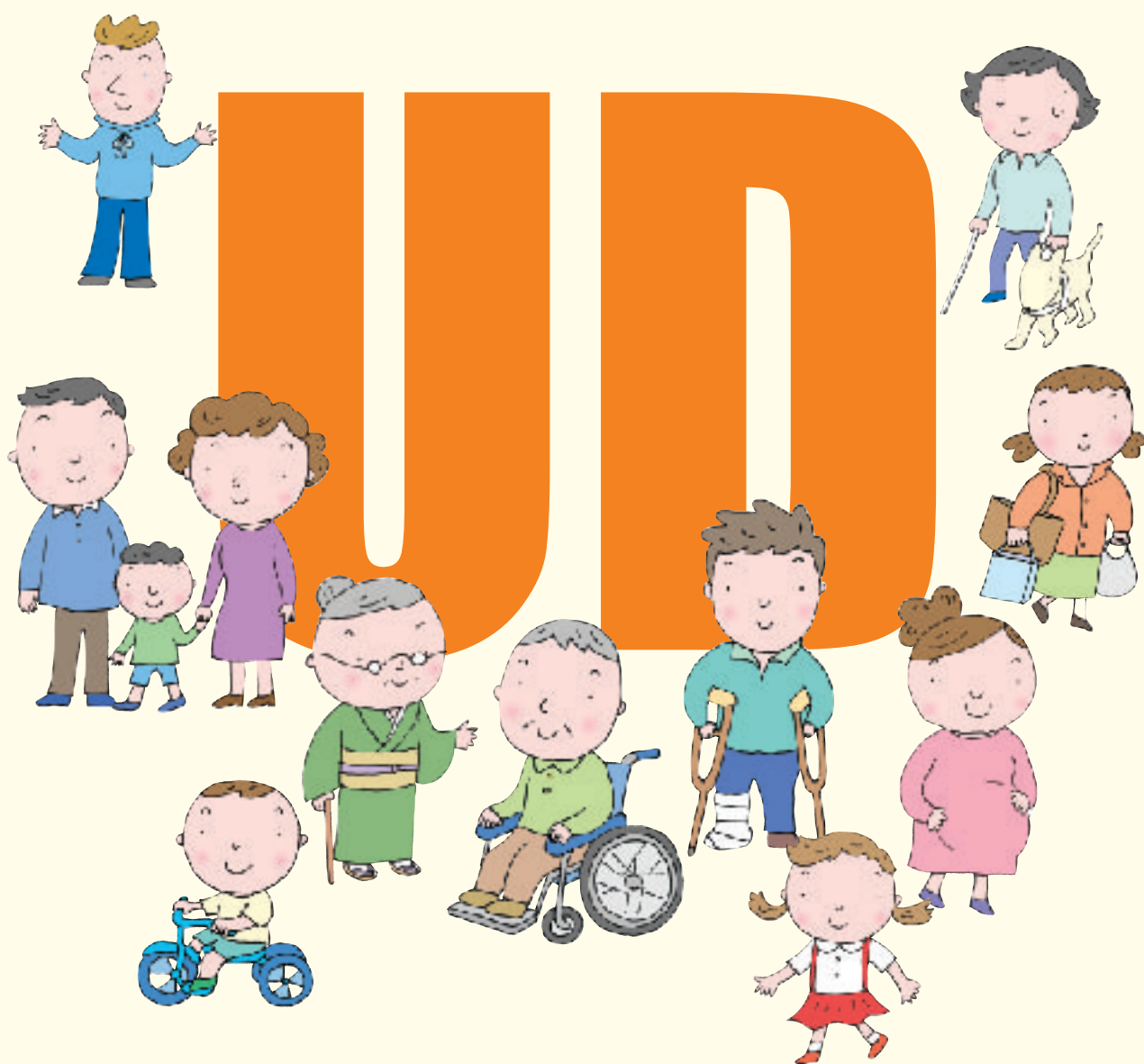


ユニバーサルデザイン 事例集

「だれもが暮らしやすく豊かなくまもと」
の実現をめざして



熊本県

はじめに

熊本県では、21世紀の社会にふさわしい新しい熊本づくりを進めるにあたって、県内の様々な分野や幅広い地域にユニバーサルデザインの理念を取り入れることとしています。

ユニバーサルデザインを進めていくためには多くの人々が主体的に参加し、お互いに協力していくことが大切です。

この冊子では、皆さんがユニバーサルデザインを導入し、実践しようとするときの参考となるように、様々な事例を紹介しています。

ユニバーサルデザイン (UD) とは

年齢、性別、国籍（言語）や障害の有無等に関係なく、最初からだれもが利用しやすい「まち」や「もの（製品）」、「情報・サービス」などをつくっていくことを意味しています。

目次

	熊本がめざすUD	1～3p
	取組みの事例紹介（作業ステップの例）	4p
まちづくり	[モデル事業] 本渡中央商店街へのUD導入	5～14p
	Q&A	15p
	まちづくりの事例	16～19p
ものづくり	[モデル事業] 荒尾・玉名地域陶器ユニバーサルデザイン化検討会	20～26p
	Q&A	27p
	ものづくりの事例	28～31p
情報・サービス	情報・サービスの事例	32～35p
	Q&A	36p
	UDに関するお問い合わせ先など	37p

熊本がめざすUD

目標

熊本県ではユニバーサルデザインを進め「だれもが暮らしやすく豊かなくまもと」の実現をめざします。

具体的には、次の3つの実現をめざします。

1 だれもが社会に自由に参加でき、積極的にチャレンジできる環境の実現

住む、働く、学ぶ、遊ぶなどの生活活動や社会活動を制約されず、だれもが思ったことに挑戦できる環境の実現をめざします。

2 使いやすいものに満たされている生活の実現

暮らしの中で必要な使いやすいものをつくる産業や市場があり、求めれば手に入れられる生活の実現をめざします。

3 一人ひとりの個性が大切にされている社会の実現

個性を尊重し、お互いが異なった個性を高め補いあう心をもって、個人の差や違いを認めあうことのできる社会の実現をめざします。

基本方向

まちづくり、もの（製品）づくり、情報・サービスづくりという3つの分野と、それらを取り巻く意識づくりについてUDを進めます。



大切なのは「意識づくり～心のUD」

すべての人に使いやすく工夫された「まち」、「もの（製品）」、「情報・サービス」も、思いやりや助け合いの心がなければ活かすことはできません。いろいろな人の立場で考える「意識づくり～心のUD」はとても大切です。

基本姿勢

ユニバーサルデザインを推進する上での基本姿勢を3つのキーワードで示しました。

1 対話によるデザイン

使いやすい製品や建物などをつくるためには、作り手が使い手の声をよく聞くことが大切です。また、使い手同士が対話を重ね、お互いのニーズの違いを知り歩み寄ることも大切です。

2 さりげないデザイン

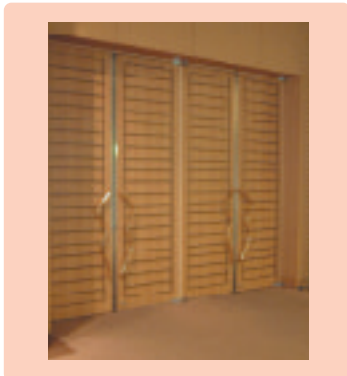
特定の人だけを対象にしたデザインは、利用する人に心理的な負担を与えたり、周囲の人に「あの人たちは特別なんだ」という意識を芽生えさせることがあります。このようなことにつながらないようにデザインにはさりげない配慮が大切です。

3 追い求めるデザイン

使いやすさを求めていくユニバーサルデザインには終わりがありません。一人でも多くのニーズに応えられるよう常に見直し、改善を図っていく姿勢を持ち続けることが大切です。

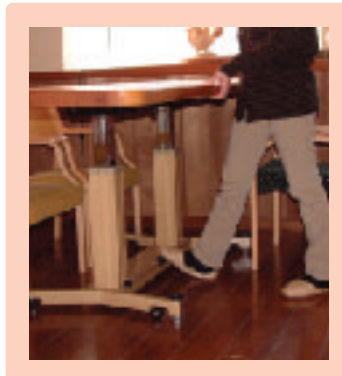
ユニバーサルデザインでは、すべての人のニーズを満たすために一般的には次の3つの対応方法が提唱されています。

① 様々な利用者にひとつの方法で対応する



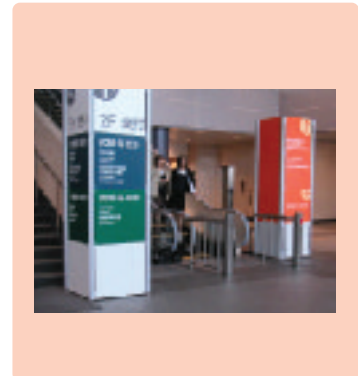
高低差を設けることで、背の高い人にも低い人にも対応できるドアの取っ手

② 利用者に合わせて柔軟に対応する



利用者に応じて高さを調整できるテーブル

③ 利用者に複数の選択肢を用意する



利用者が階段・エスカレーター・エレベーターを選択できる施設

取組みを円滑に進めるために

ユニバーサルデザインの実践を進めていくうえで、気をつけなければならない点を、原則と4つの視点という形で整理しました。

原則

プロセス（過程）の重視

だれもが利用しやすい「まち」や「もの（製品）」、「情報・サービス」等をつくっていくためには、利用者の立場に立った検討を重ねていくプロセス（過程）が重要になります。

例えば、あらかじめ利用者の状況を調査しニーズを把握する、利用者と話し合いを重ねながらさらなる使いやすさを追い求める、使いやすさの面で模範的な事例を取り入れ活用するなどのプロセス（過程）が重視されます。

視点

視点 簡単

すべての人に簡単

わたしたちの身の回りにあるものは、できるだけだれもが入りやすい、わかりやすい、利用しやすいといった「簡単」さを備えていることが求められます。

視点 快適

すべての人に快適

わたしたちの身の回りにあるものは、できるだけ楽な姿勢で、抵抗や負担を感じたりせずに利用でき、使い勝手が良いといった「快適」さを備えていることが求められます。

視点 安全

すべての人に安全

わたしたちの身の回りにあるものは、万一間違った使い方や操作をしても事故につながらず、安心感があるといった「安全」さを備えていることが求められます。

視点 柔軟

すべての人と状況に柔軟

わたしたちの身の回りにあるものは、人それぞれの体型や能力の違い、回りの状況の変化等にも制約を受けないといった「柔軟」さを備えていることが求められます。

取組みの事例紹介

UDの取組みを
まちづくり、ものづくり、情報・サービス
の3つの分野に分けて紹介します。

UD導入における作業ステップの例

※UD導入を検討されている方へ／ここに示す作業ステップは一例です。UD導入の取組みを行う際の作業手順の参考としてください。

